



株式会社ダイセル  
株主の皆様へ

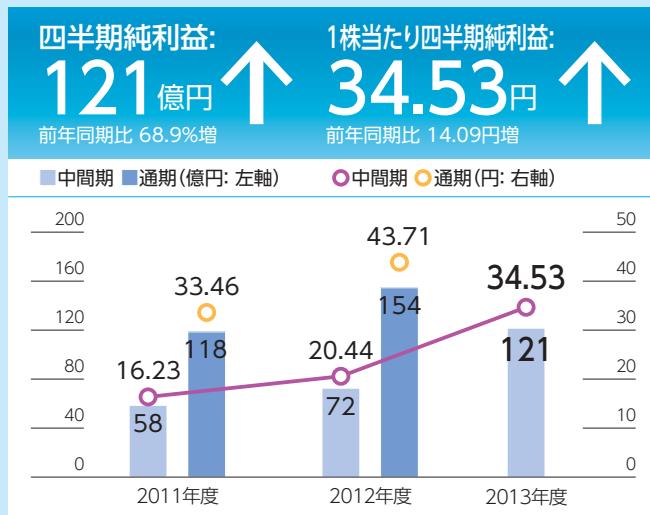
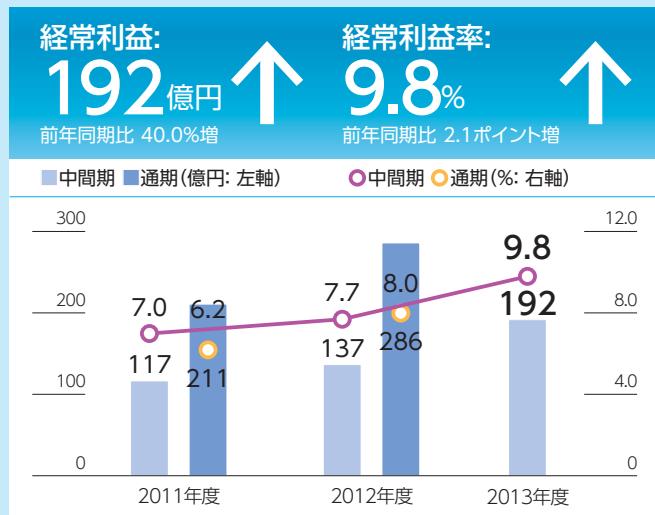
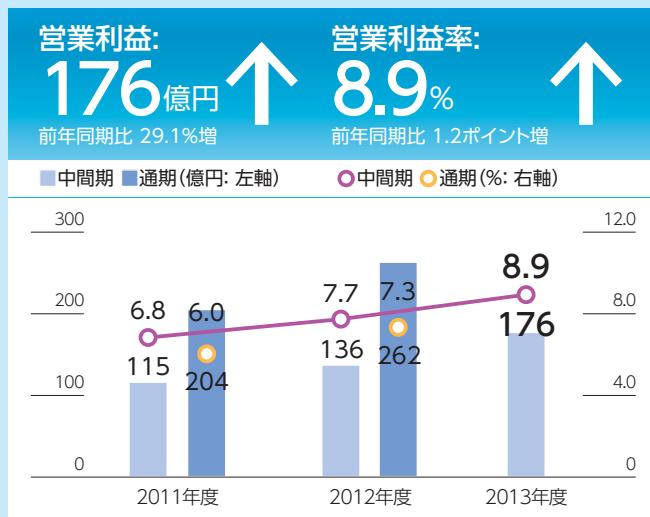
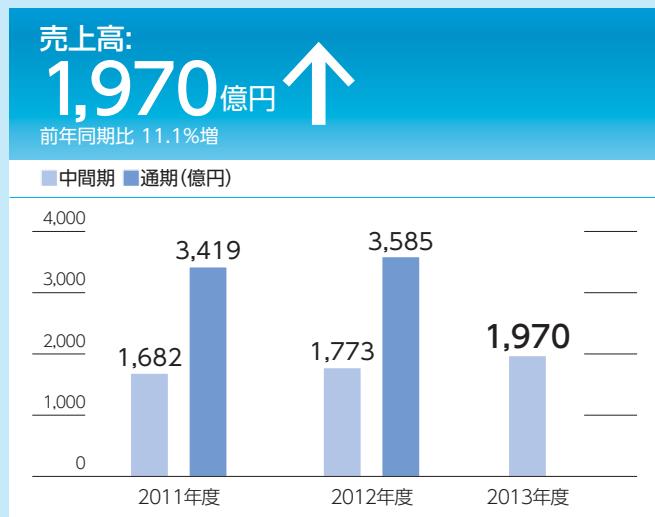
第148期 中間

2013年4月 1日から  
2013年9月30日まで



# 財務ハイライト(連結)

ダイセルグループの当中間期(第2四半期累計期間)における連結業績は、円高の緩和や販売価格の是正、販売数量の増加などにより、売上高は1,970億円(前年同期比11.1%増)、営業利益は176億円(同29.1%増)となりました。また、経常利益は192億円(同40.0%増)、四半期純利益は121億円(同68.9%増)となりました。



# 株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ダイセルグループの第148期(2013年度)中間期の事業の概況につきまして、次のとおりご報告申し上げます。

## 当中間期の業績

2013年度中間期のわが国経済は、円高の緩和を背景とした輸出環境の改善など、景気の持ち直しの動きが見られましたが、依然として実需の回復に力強さはなく、景気の下振れリスクや為替の変動など、予断を許さないうちに推移しました。

このような環境の中、当社グループにおきましては、為替の影響や、販売価格の是正、販売数量の増加などにより、増収増益を達成することができました。

## 通期の見通し

通期の見通しにつきましては、経済情勢の先行きが不透明であることや、原燃料価格の高騰が見込まれますが、当社グループでは、中期計画「3D-I」の基本戦略である「新規事業の創出」や「コア事業の更なる強化」などを引き続き推進し、増収増益基調を確固たるものとしてと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年12月  
代表取締役社長

札場 操





次期中期計画「3D-II」での  
ステップアップを目指し、  
「3D-I」の諸施策を着実に実行していきます。

**Q** 2013年度中間期の業績についてお聞かせください。

**A** 円高の緩和、販売価格の是正、販売数量の増加などにより、増収増益を達成しました。

当中間期の経済環境は、景気を持ち直しの動きが見られたものの、依然として厳しい状況で推移しました。このような環境の中、当社グループの業績は売上高が1,969億61百万円（前年同期比11.1%増）と、増収となりました。主な増収の要因は、為替が前年同期より円安で推移したことや、販売価格の是正、たばこフィルター用アセテート・トウや自動車エアバッグ用インフレーターなどの販売数量が増加したことなどです。

また、利益面につきましては、為替の影響などにより、営業利益が175億89百万円（同29.1%増）、経常利益が192億18百万円（同40.0%増）、四半期純利益が121億43百万円（同68.9%増）と、各利益段階において大幅な増益を達成することができました。

なお、中間配当につきましては、前年同期に比べ普通配当を1円増配し、1株当たり6円とさせていただきます。

(単位：億円)

**2013年度  
通期業績見通し  
(前年度対比)**

	2012年度	2013年度	増減	増減率
売上高	3,585	4,070	+485	+13.5%
営業利益	262	360	+98	+37.4%
経常利益	286	380	+94	+33.0%
当期純利益	154	210	+56	+36.6%

## Q 通期の見通しについてお聞かせください。

### A 中期計画「3D- I」の諸施策を着実に実施し、過去最高益を目指します。

通期の見通しにつきましては、経済情勢の先行きが不透明であることや、原燃料価格の高騰が見込まれますが、当中期の業績が当初の業績予想数値を上回ったことを踏まえ、業績予想を上方修正しました。経常利益と当期純利益で過去最高益を目指します。

中期計画「3D- I」の最終年度である当年度は、中期計画の目標数値には残念ながら届きません。しかし、長期ビジョンを

見据えた中期計画の考え方・方向性は変えておらず、基本戦略を着実に実施し、次期中期計画「3D- II」でのステップアップを目指しています。

なお、通期の業績見通しにつきましては、売上高が4,070億円（前年度比13.5%増）、営業利益が360億円（同37.4%増）、経常利益が380億円（同33.0%増）、当期純利益が210億円（同36.6%増）を予想しています。

**Q** 中期計画の基本戦略の一つである「コア事業の更なる強化」についてお聞かせください。

**A** 各セグメントにおいて、コア事業の更なる強化を図っています。

中期計画「3D-I」の基本戦略に則り、当社グループではコア事業の更なる強化を図っています。

セルロース事業部門におきましては、たばこフィルター用アセテート・トウの需要が新興国を中心に伸びており、この需要増に対応するため、たばこフィルター用アセテート・トウ事業の強化を進めています。(→詳細については、6ページ参照)

有機合成事業部門におきましては、エタノールチェーンの需要の拡大を見込んで、2011年11月に大竹工場の酢酸エチル製造能力を50%増強しました。また、キラル分取事業は、

特に需要の伸びが著しい中国・インド市場での展開に注力しています。中国では市場の拡大に対応するため、本年4月に上海の現地法人を新施設に移転・拡張しました。

合成樹脂事業部門におきましては、グループ会社であるポリプラスチック(株)とダイセルポリマー(株)を中心に、合成樹脂事業の体制強化を進めています。ポリプラスチック社は、2011年に韓国、2012年に米国、ドイツ、2013年にメキシコ(→詳細については、6ページ参照)に営業拠点を設置しました。また、エンジニアリングプラスチックの安定的な供給体制を構築するため、マレーシアでのポリアセタール重合設備の増設を進めるとともに、台湾、中国でのコンパウンド能力の増強を行いました。

また、火工品事業部門におきましては、エアバッグ用インフレーター事業の強化を図っています。2011年11月に韓国に設立したインフレータの製造・販売会社が本年12月に操業を開始するほか、2012年4月にはインフレータの重要な部品であるイニシエータ(インフレータ用着火部品)の米国の製造・販売会社を買収しました。



## TOPICS 1

### たばこフィルター用アセテート・トウ事業の強化

#### ～国際競争力の高い生産体制の構築～

たばこフィルター用アセテート・トウ事業は当社のコア事業の一つであり、世界のアセテート・トウ需要の拡大を背景に、中期計画「3D-I」においても同事業の強化に取り組んでいます。世界のたばこ需要は、アジア、アフリカ、中近東などを中心に伸張しています。当社は国際的に競争力の高い生産体制を構築することを目指していますが、この拡大するたばこ市場に対応し、製品の供給量を確保して販売機会を的確に捉えるために、以下の施策を実行しました。

本年5月1日、当社は三菱レイヨン(株)が2012年10月に分社設立した富山フィルタートウ(株)を両社の合併会社としました。当社は富山フィルタートウ社の事業遂行に必要な原料である酢酸セルロースを供給し、当社及び三菱レイヨン社は富山フィルタートウ社が製造する製品を引き取り、それぞれが従来通り個別に販売活動を行います。

また、本年7月に大竹工場のたばこフィルター用アセテート・トウ製造設備を増設し、姫路製造所網干工場の同製品につきましても製造能力の増強を実施しました。これにより当社のアセテート・トウ製造能力は約1割増加することになりました。

今後も引き続き、たばこフィルター用アセテート・トウ事業の更なる強化に取り組んでまいります。



大竹工場



網干工場

## TOPICS 2

### ポリプラスチックス(株)がメキシコに販売会社を設立

#### ～北米・中南米の顧客へのきめ細かな対応と販売力の強化～

当社のグループ会社であるポリプラスチックス(株)は、メキシコに販売会社「Polyplastics Marketing Mexico, S.A. de C.V.」を設立し、2013年10月から営業を開始しました。

メキシコは、中南米地域においてブラジルに次ぐ1億人以上の人口を有する国で、近年においては北米・中南米への輸出拠点としても拡大しています。特に、自動車分野においては、日系のみならず欧米系企業の進出も盛んであり、将来への拡大が期待されています。

メキシコに拠点を置くことにより、北米・中南米に進出している日系顧客に対しよりきめ細かな対応を進めていくことが可能になり、また、米国の販売会社であるPolyplastics USA, Inc.とともにアジアに進出の米国企業へのサポートを行う拠点として、グループ内での重要な位置付けとなります。ポリプラスチックス社では、北米・中南米地域でのより密着した営業活動を推進し、更なる販売力の強化、事業拡大に取り組んでまいります。

ダイセルグループは、現在進行中の中期計画「3D-1」のもとで、エレクトロニクス分野、エネルギー・環境分野、メディカル・ヘルスケア分野をターゲット領域として、新規事業の創出にチャレンジしています。本特集では、近年、メディカル・ヘルスケア分野で当社が開発した製品の中から「エクオール」を機能性成分として含むメーカー向け素材「**フラボセル®**」を紹介します。

# 化粧品及びサプリメントの両輪で 用途が見込まれる「エクオール」

## 「エクオール」とは

エクオールとは、大豆及び豆腐、納豆、豆乳などの大豆加工品に多く含まれるイソフラボン的一种「ダイゼイン」が、人の腸内細菌によって還元生成される物質で、イソフラボン効能の正体と言われています。エクオールには、更年期症状改善、骨粗しょう症予防、乳癌・前立腺癌予防、美白・皮膚老化予防などの作用が報告されており、「エイジングケア」の機能性成分として期待されています。

エクオールには、上記のような有用な作用があるものの、体内でエクオールを作る人（エクオール産生者）は限られており、日本人女性で50%、欧米人女性では30%程度と報告されています。また、近年では食生活の欧米化などが原因で、日本人の若年層における割合は低下傾向にあるようです。しかしながら、エクオールを産生できない人については、エクオールを直接摂取することで効能効果を享受できると考えられています。

## 量産化技術を確立

当社においては、数年前から微生物によるエクオール生産を検討してきましたが、世界に先駆け、エクオールの量産化技術を確立し、既に新井工場にエクオールを含有する機能性素材を生産できる体制を整えています。今後はこの量産化技術をもとに、エイジングケアに貢献できる機能性素材として、商品開発を進めていきます。



### 期待されている作用

- 更年期症状改善
- 骨粗しょう症予防
- 乳癌・前立腺癌予防
- 美白・皮膚老化予防

## 事業化への取り組み

当社では、大豆由来のエクオール含有機能性素材(商品名:**フラボセル®**)を、化粧品、サプリメント用途の両輪で事業化を進めていく計画です。

化粧料としては、メラニン産生抑制やコラーゲン産生促進、セラミド関連遺伝子の発現促進などについて細胞レベルの効果も確認済みであり、化粧品メーカーへの供給も始めています。また、化粧料に続いて、サプリメントの原料として、今秋より国内クリニック向けの販売を開始し、来春には本格供給を始める予定です。

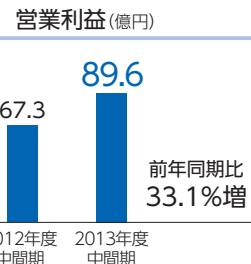
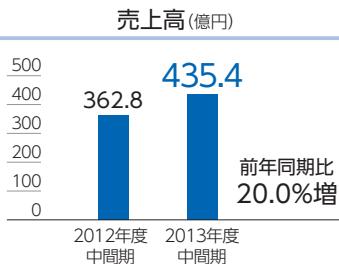
# セグメント別事業概況

セグメント別  
売上高構成比



- セルロース事業部門 22.1%
- 有機合成事業部門 19.6%
- 合成樹脂事業部門 37.7%
- 火工品事業部門 19.2%
- その他部門 1.4%

## セルロース事業部門



## 有機合成事業部門



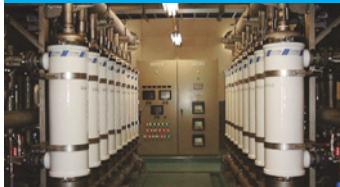
## 合成樹脂事業部門



## 火工品事業部門



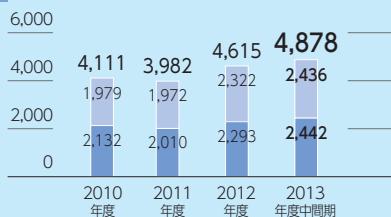
## その他部門



■ 酢酸セルロース	・液晶表示向けフィルム用途は微減となりましたが、たばこフィルター用途が増加し、売上高は増加しました。
■ たばこフィルター用トウ	・網干工場の2年に1度の定期修繕などによる減産がありましたが、7月から大竹工場と網干工場での増産が寄与したことや、海外向け販売が好調に推移したこと、販売価格は正、為替の影響により、売上高は増加しました。
■ 酢酸	・網干工場の2年に1度の定期修繕を実施したことや、高純度テレフタル酸 (PTA) 向けの需要減少などにより販売数量が減少しましたが、販売価格は是正や為替の影響により、売上高は増加しました。
■ 汎用品 (酢酸誘導体、各種溶剤類など)	・塗料用途などの販売数量が減少しましたが、液晶パネル向けなど電子材料分野への販売数量が増加したことや為替の影響により、売上高は増加しました。
■ 機能品 (カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物など)	・電子材料向けの販売数量増加や為替の影響により、売上高は増加しました。
■ キラル分取事業 (光学異性体分離カラムなど)	・カラムの販売が好調に推移したことや為替の影響により、売上高は増加しました。
■ エンジニアリングプラスチック (ポリアセタール樹脂、PBT樹脂、液晶ポリマーなど)	・12月を決算期としているポリプラスチック (株) グループが事業を行っており、当第2四半期にあたる2013年1～6月において、自動車の生産台数減少や、電子デバイス製品の販売低調の影響を受け販売数量は減少しましたが、為替の影響により、売上高は増加しました。
■ 樹脂コンパウンド事業 (ABS樹脂、エンブラアロイ樹脂など)	・自動車部品向けなどが堅調に推移し、売上高は増加しました。
■ 樹脂加工事業 (シート、成形容器、フィルムなど)	・主に原燃料高に伴う販売価格是正を実施したことにより、売上高は増加しました。
■ 自動車エアバッグ用インフレーター (ガス発生器) 及びシートベルト・プリテンショナー用ガス発生器 (PGG)	・北米自動車市場の拡大基調の継続や中国での日本車販売の回復、為替の影響により、売上高は増加しました。
■ 特機事業 (発射薬、ミサイル構成部品、航空機搭乗員緊急脱出装置関連製品など)	・一部製品の防衛省による調達数量減少により、売上高は減少しました。
■ メンブレン事業 (水処理用分離膜モジュールなど)	・下水道分野向けが堅調に推移しましたが、医療分野向けなどの需要が落ち込み、売上高は減少しました。
■ その他の事業 (運輸倉庫業など)	・売上高は減少しました。

# 中間連結財務諸表

流動資産 (億円)  
固定資産 (億円)



自己資本 (億円: 左軸)  
自己資本比率 (%) (右軸)



有利子負債 (億円: 左軸)  
総資産に対する有利子負債比率 (%) (右軸)



## 連結貸借対照表

(単位: 百万円、百万円未満切り捨て)

	前 期 2013年3月31日現在	当中間期 2013年9月30日現在	増 減 (△印減)
<b>資産の部</b>			
流動資産	232,200	<b>243,590</b>	11,390
固定資産	229,312	<b>244,225</b>	14,913
有形固定資産	149,323	<b>155,836</b>	6,513
無形固定資産	13,605	<b>13,664</b>	59
投資その他の資産	66,382	<b>74,724</b>	8,342
<b>資産合計</b>	<b>461,512</b>	<b>487,815</b>	26,303 <sup>①</sup>
<b>負債の部</b>			
流動負債	113,226	<b>98,769</b>	△ 14,457
固定負債	85,386	<b>107,223</b>	21,837
<b>負債合計</b>	<b>198,613</b>	<b>205,992</b>	7,379 <sup>②</sup>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	226,757	<b>236,424</b>	9,667
資本金	36,275	<b>36,275</b>	—
資本剰余金	31,579	<b>31,579</b>	—
利益剰余金	164,927	<b>174,609</b>	9,682
自己株式	△ 6,025	△ <b>6,039</b>	△ 14
その他の包括利益累計額	14,207	<b>20,530</b>	6,323
少数株主持分	21,935	<b>24,868</b>	2,933
<b>純資産合計</b>	<b>262,899</b>	<b>281,823</b>	18,924 <sup>③</sup>
<b>負債純資産合計</b>	<b>461,512</b>	<b>487,815</b>	26,303

## POINT

- ① 有価証券、有形固定資産、投資その他の資産の増加などにより、増加しました。
- ② 短期借入金は減少しましたが、社債の発行などにより、増加しました。
- ③ 自己資本は2,569億55百万円、自己資本比率は52.7%となりました。

財務諸表につきましては、当社ホームページのIRライブラリーに詳細を掲載しています。

アドレスは次のとおりです。

<http://www.daicel.com/ir/irlibrary.html>

## 連結損益計算書

(単位: 百万円、百万円未満切り捨て)

	前中間期	当中間期	増減 (△印減)
	自 2012年4月1日 至 2012年9月30日	自 2013年4月1日 至 2013年9月30日	
売上高	177,320	196,961	19,641 ④
売上原価	136,717	150,223	13,506
売上総利益	40,603	46,738	6,135
販売費及び一般管理費	26,978	29,149	2,171
営業利益	13,625	17,589	3,964
営業外収益	2,055	2,652	597
営業外費用	1,949	1,022	△ 927
経常利益	13,731	19,218	5,487 ⑤
特別利益	6	2,208	2,202
特別損失	1,386	499	△ 887
税金等調整前四半期純利益	12,350	20,927	8,577
法人税等	3,670	7,187	3,517
少数株主利益	1,490	1,596	106
四半期純利益	7,190	12,143	4,953
設備投資額	11,904	14,556	2,652 ⑥
減価償却費	11,549	11,236	△ 313
研究開発費	6,229	6,516	287

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円、百万円未満切り捨て)

	前中間期	当中間期	増減 (△印減)
	自 2012年4月1日 至 2012年9月30日	自 2013年4月1日 至 2013年9月30日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,909	17,786	△ 5,123
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,472	△ 15,226	3,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,918	2,668	8,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,158	60,735	28,577

## POINT

- ④ 円高の緩和や、販売数量の増加、販売価格の是正などにより、11.1%の増収となりました。
- ⑤ 売上高の増加に為替差損益の改善などが加わり、40.0%の増益となりました。
- ⑥ たばこフィルター用アセテート・トウ製造設備を増設しました。

設備投資額 中間期 通期 (億円)



減価償却費 中間期 通期 (億円)

研究開発費 中間期 通期 (億円: 左軸)  
売上高研究開発費比率 中間期 期末 (%: 右軸)

# 会社概要

(2013年9月30日現在)

商号：株式会社ダイセル

英文商号：Daicel Corporation

大阪本社：〒530-0001

大阪市北区梅田3-4-5(毎日インテシオ)

Tel. (06)6342-6111

東京本社：〒108-8230

東京都港区港南2-18-1 (JR品川イーストビル)

Tel. (03)6711-8111

設立：1919年9月8日

資本金：362億7,544万89円

従業員数：連結：9,407名 単独：1,942名

## 役員：

### 取締役

取締役会長 小川 大介  
代表取締役社長 札幌 操\*  
代表取締役 福田 眞澄\*  
取締役 小河 義美\*  
取締役 後藤 昇  
取締役 古森 重隆  
取締役 岡田 明重  
取締役 近藤 忠夫

\*執行役員兼務者

### 監査役

常勤監査役 大屋 均  
常勤監査役 木原 強  
監査役 岡本 罔衛  
監査役 高野 利雄

### 執行役員

社長執行役員 札幌 操  
専務執行役員 福田 眞澄  
専務執行役員 宮崎 鉄三  
常務執行役員 宗 正幸  
常務執行役員 井口 友二  
常務執行役員 小河 義美  
常務執行役員 西村 久雄  
執行役員 岩井 保範  
執行役員 白子 直秀  
執行役員 児島 秀景  
執行役員 Dieter Heckmann  
執行役員 安藤 隆彦

# 株式情報

(2013年9月30日現在)

株式の状況：発行可能株式総数 1,450,000,000株

発行済株式総数 364,942,682株

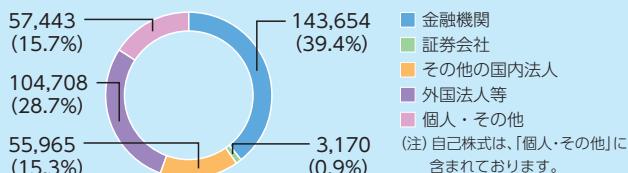
株主数 15,848名

## 大株主：

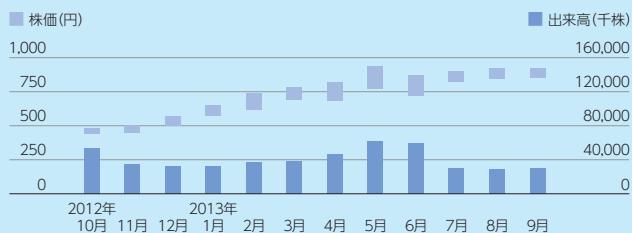
株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	25,348	7.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,040	6.83
日本生命保険相互会社	18,108	5.14
富士フィルム株式会社	17,271	4.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	15,794	4.49
トヨタ自動車株式会社	15,000	4.26
株式会社三井住友銀行	7,096	2.01
三井住友海上火災保険株式会社	6,597	1.87
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,503	1.84
ダイセル持株会	5,810	1.65

(注) 出資比率は、自己株式を控除して算出し、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

## 所有者別株式分布状況(千株)



## 株価(高値・安値)及び株式売買高の推移



# 株式事務のご案内

- 事業年度:** 毎年4月1日より翌年3月31日まで
- 定時株主総会:** 6月中
- 同総会権利行使  
株主確定日:** 3月31日
- 株主配当金支払  
株主確定日:** 3月31日
- 中間配当金支払  
株主確定日:** 9月30日
- 株主名簿管理人:** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所:** 〒540-8639  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付先:  
(電話照会先)** 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店  
及び全国各支店で行っております。
- 単元株式数:** 1,000株
- 上場証券取引所:** 東京
- 公告方法:** 電子公告  
ただし、事故その他やむを得ない事由によっ  
て電子公告による公告をすることができない  
場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
なお、電子公告は当社のホームページに掲載  
して行います。

## お知らせ

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました  
株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行  
株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出  
ください。



URL:<http://www.daicel.com>

ダイセルグループのホームページでは、  
最新の会社情報を随時更新しています。



ホームページ URL: <http://www.daicel.com>



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

本冊子は環境にやさしい植物油インキと、適切に管理された  
木材を原料としてつくられた[FSC®認証紙]を使用しています。